

氏名	福島 伸乃介
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6598 号
学位授与の日付	2022年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Trends in the Incidence and Mortality of Legionellosis in Japan: A Nationwide Observational Study, 1999–2017 (日本におけるレジオネラ感染症の1999-2017での発生率、死亡率の傾向に関する観察研究)
論文審査委員	教授 松下 治 教授 神田秀幸 教授 草野展周

学位論文内容の要旨

本研究は、日本の人口統計と感染症の週報（1999-2017）のデータを使用して、年齢と性別による人口10万人あたりのレジオネラ症の粗および年齢調整された発生率と死亡率を計算し、発生率は四季間で比較、地域の発生率は47都道府県間で比較を行った。日本のレジオネラ症の13,613人（男性11,194人）のうち、死亡例は725人（男性569人）であった。発生率の増加傾向は、人口10万人あたり0.0004（1999）から1.37（2017）に発生し、特に70歳以上の人々は全体の43.1%を占めた。男性の年齢調整発生率は、女性の約5倍であり、季節性においては、冬よりも夏に有意に高い発生率であった（ $p = 0.013$ ）。地理的に最も高い発生率は北陸地方で、北海道と日本中部で増加傾向であることを示し、推定致死率は、1999年から2017年にかけて、減少傾向であった。日本において1999年から2017年にかけてレジオネラ症の発生率は増加傾向にあり、その推定致死率は低下傾向にあった。今後の高齢化社会と温暖化の進行に伴い、その発生率は上昇が予想され、将来的に疾患の臨床的負担がさらに悪化する可能性があると考えられた。

論文審査結果の要旨

レジオネラ症は、*Legionella pneumophila*等のレジオネラ属菌による細菌感染症であり、重症肺炎となる「在郷軍人病」と一過性で自然治癒する「ポンティアック熱」の二つの病型が知られている。本研究では、我が国の人口統計と感染症週報(1999-2017)を用いて、レジオネラ症の発生率と死亡率について、年齢、性、発生時期、地域別に比較した。この期間の発症は13,613人、死亡は725人であり、発生率は人口10万人あたり0.0004から1.37に増加した。70歳以上の患者が43.1%を占め、男性は女性の約5倍であった。夏の発生率は冬より有意に高かった。北陸地方に多発し、北海道と中部地方で増加傾向が顕著であった。推定致死率は、減少傾向であった。高齢化と温暖化の進行に伴い発生率の増加が予想された。

委員からは、検査導入の発生率増加への寄与、尿中抗原検査と遺伝子検査が対象とする菌株、高齢化が発症率増加の一因とする理由、感染症法での本菌の取り扱いの変遷、我が国における空調冷却水、循環温水、露天風呂、腐葉土などの病因、地理的分布との関係性、参考論文のテーマとの関係性などについて質問があり、本研究者は具体的に言及しつつ自らの考察を適切に述べた。

本研究は、20年に渡る我が国のレジオネラ症の動向を、精密な疫学統計に基づいて世界に発信しており、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。